



戦時中に強制連行 中国人被爆者の 歴史的背景学ぶ 広島で18日集会

戦時中に中国から強制連行され、広島で被爆した孟昭恩さん(1923～2009年)の生涯をたどる集会が18日午後2時、広島市中区の広島弁護士会館である。中国から来日する三男の話を聞くなり、強制連行や被爆の実態を学ぶ。

主催する市民団体「広島安野・中国人被害者を追悼し歴史事実を継承する会」によると、孟さんは広島県安芸太田町の安野発電所の建設工事のため強制連行された中国人360人の1人。中国人の間で起きた事件で広島刑務所に収監され被爆した。45年末に帰国した。

3日に市役所で記者会見した川原洋子事務局長は「中国人被爆者の歴史的背景を知ってほしい」と呼びかける。資料代500円。

翌19日は午後1時半から安芸太田町で追悼の集いがある。市内発着の送迎(バス代千円、定員20人)が必要な人は15日までに申し込む。同会8080(3880)8340。

強制連行や帰国後の苦悩

中国人被爆者の生涯たどる



戦時中に中国から強制連行され、広島で被爆した孟昭恩さん(1923～2009年)の生涯をたどる集会が18日、広島市中区の広島弁護士会館であった。約50人が参加。



帰国後の父昭恩さんについて語る憲法さん(奥右)

中区で集会 三男が証言

中国から来日した三男憲法さん(55)が父の半生を紹介した。

兵士だった昭恩さんは日本軍との戦いで捕虜になった後、1944年8月に連行され、広島県安芸太田町の安野発電所の建設工事に従事。中国人の間で起きた事件により、広島刑務所に収監され、被爆した。

憲法さんは45年末に帰国した後の父の苦悩を証言した。生活は苦しく、

日本の捕虜となったことで周囲からの目も冷やかだったとし「長男が結婚できないなど家族も影響を受けた」と語った。

市民団体「広島安野・中国人被害者を追悼し歴史事実を継承する会」が主催。参加者は強制連行や中国人被爆者の帰国後について、映像などでも学んだ。(松山菜摘)